若手教職員の校内研修のあり方

若竹グループの現職教育実践の試み

足利市立西小学校若竹グループ

1. 研究テーマ設定の理由

本校の若竹グループは，教職5年未満の段階に即し，学級経営，教科指導等の研修を行い，教職員としての自覚を高め，資質の向上に努めることをねらいとして結成された組織である。5年未満は，半人前であるという自覚のもとに，身近にいる先輩教師に学び，先輩教師においつき，おいこせの気運を持ったグループである。そして教育実践の諸問題を，ひとりでかかえこみ，悩むことのないよう組織的に解決していくことを目的としている。

若竹グループの研修の方向としては，本校の教育改善の方向である「教育活動の総体を読み取る力の育成」をめざしている。私たちは，「木を見て森を見ず」のたとえのごとく，ややもすると毎日の目先のことにおわれて，今，行っている教育実践の根本的な考え方を見失いがちである。そこで，「着眼大局着手小局」という考えのもとに，学校の教育を総体としてとらえしかも，今行っている教育活動が，その全体とどうむすびつくのか，全体と部分の脈絡を確実におさえていくための構成力や分析力を実践を通して身につけていくことを，大きなめざす方向としていきたいと考える。

また，毎日の教育実践がその場だけのいきあたりばったりの指導におちいってしまう危険性がある。そうならないために，学習指導の面では，単元全体の指導計画を把握した上で，毎時間の指導を行っていくことが大事になる。さらに大きく考えると，いつでも念頭に，育てたい子どものイメージを描いて，長い目で子どもたちの成長を見守りながら，そのイメージに近づけるよう指導をくりかえしていくことが大事であると考える。そのためには，教師側に，自分の考える「育てたい子どものイメージ」≒教育的理念が裏付けとしてなければならない。しかし経験も浅い私たちであるので，自分の教育に対するバックボーンとなる考えもあまり育っていない。そこで，学校の教育計画に学んだり，先人の教育学を学んだりすることも，計画の一部に加えてある。

以上，述べてきたことが，若竹グループ結成のねらいやすすむ方向であるが，ここで今までの若竹グループの研修のあり方をふりかえり，今後さらに向上するためにはどうしたら良いか模索するためこの研究をはじめた。

2 研修計画

(1) 研修の姿勢

若竹グループは，自然発生的なものでなく，昭和54年度から学校経営の方針に基づき，現職教育計画の別途計画として立案し，意図的計画的に始まったものである。従って当初は，現職教育係が研修計画を立案する形をとっていた。そして，研修が軌道にのり出してきた，

4年目からは，受け身的な研修から脱皮し，グループ員自らが，立案，計画，実践する研修の形に変えるようにした。わたしたちの発案で一。もちろん若竹グループが勝手に自分たちだけで研修するというのではなく，学校の現職教育計画に，若竹グループの研修計画としてのせ，学校の態勢として整えるとともに，わたしたち自らの主体的自発的な研修としてのあるべき方向，態度を見い出したのである。

(2) 研修の内容

① 総合的な見方，考え方についての研修

この研修では，毎日の日常的な小さな出来事も見過さず，その出来事が，学校全体の大きな教育活動の中のどこに位置づき，どこと結びついているのか，全体と部分の関連について，西小学校教育計画をもとに，考えていくことを内容とした。たとえば，教育計画の中の中庭の芝生の活用は，学校の中庭の芝生がのばなしになっているという問題を芝生の管理という面だけでかたづけるのではなく，学校の教育活動全体の中で，芝生を教具の一つとして見なし，体育時や図工時などに活用することを考えており，総合的な見方，考え方の良い例になっている。

また，教育全般についての総合的な見方，考え方を深めるために，先人の教育学の本の輪読会なども行った。

② 研究授業（事前研究，事後研究も含む）

研究授業は，若竹グループの研修の一ばん大きな柱になっている。そしてたんに授業を順番に行ってすませるというのではなく，事前研究を何回か持ち，授業後，研究討議を行っている。別記の研究授業の実践例にあるように，事前研究は，授業者が提案した資料をもとに，問題点を話し合い，指導案に手をくわえていく。その際，一回目の事前研究は，課題設定の理由や，単元の指導計画の流れなど，全体的な大すじの考えについて話し合っていく。そして二回目は，本時の展開部の発問のしかた，資料の提示のしかた，板書計画など，細かい部分について話し合い，さらに問題が残る場合は，三回目をひらくという形をとっている。まさに全体と部分の関連を考えた実践を行っていくのである。

そして，授業後は，事前研究で話しあわれたことが，実際の授業ではどうであったか，討論し，問題点を出し合い，次の研究授業の際の課題としていく。

また，この研究授業は，学習指導主任，教科主任，学年主任を指導者としており，事前研究や，事後の話し合いにも参加していただき，指導をあおいでいる。

③ 実技の研修

体育や図工などの技術を要する教科の指導技術向上をめざして行っている研修である。主に，体育を中心に体育主任を指導者に招き，実際に自分たちでやってみて，指導方法を研修している。

④ 日常指導上の諸問題の研修

特に児童指導上の問題についての研修をその内容としている。現在かかえている子どもの問題を事例研究を中心に，どう対処していったらよいか，児童指導主任を指導者にして

話し合っている。それは，現在受けもっている子の対処のしかたなので，そのまま子どもにはねかえっていく，重要な研修である。さりげない子どものつぶやき，目の色などでいかに子どもの状態に気づいていくか，気づく教師になれるか，大きな課題である。

⑤ 炉辺談話的研修

職員室を中心に，休み時間や放課後に雑談的に話す中にこそ，大事な研修内容がふくまれていると私たちは考える。さらに話をすすめるなら，研修計画を作らなくても，職員室などで，自主的に研修が行われていくのが理想であると考えている。この炉辺談話的研修は，そんな日常のさりげない先輩教師たちとのやりとりをさしている。例えば，図工にくわしい先生の版画の指導法の話，クラスで問題になっている子のことを，そっと学年主任に相談してみること，理科の実験器具の作成のしかたや扱い方を先輩の先生に教えてもらうことなどがあげられる。この研修では，校務分掌上の主任が指導者であり，積極的に先輩教師にたずねる態度を持ち続けることにより，指導の輪を広げていきたいと考えている。

⑥ 全体の現職教育への参加

若竹グループの研修は，全体の現職教育の一部をなしているが，また若竹グループ員は，全体で行われる研修にも参加している。つまり若竹グループの研修は，全体研修と若竹グループ独自の研修とあわせて1になっていると言える。

全体の現職教育の内容は，研究授業を中核として行われているが，その特色ある内容として，個人研究がある。個人研究とは，教師一人ひとりが日常の教育実践の中で考え工夫し，実証したことを発表しあうものである。それに私たちも参加している。

(3) 昭和５７年度の例（自発的な活動に変わってきたときの例）

① 計画的研修 (1)

月	日	研修内容（教科等）	授業者	指導者	時間	備考
4	中	・教師としての基本的姿勢		校長	1.5	
6	上	・研究授業（算数）	関口	・学習指導主任教務，4年主任，算数主任	2.5	・事前研究は，若竹グループのリーダーが中心になってすすめる。（以下同じ）「週指導計画案作成について」（教育計画参照）を活用する。
6	下	・研究授業（国語）	大竹	・学習指導主任教務，5年主任，国語主任	2.5	
8	中	・学級経営について		・学級経営主任教務，児童指導主任	2	・問題を1～2にしぼって話し合いを深めるようにする。

8	下	・輪読会			2	・課題図書を決め，夏休み中に読んでおく。
9	中	・研究授業（算数）	高沢 村田	・学習指導主任教務，1,4年主任，算数主任	4	
10	8日	・新採教員指導（授業と話し合い）	大竹 村田	・市教委指導主事		・指導者との事前打合せは教務。
11	中	・研究授業（体育）	尾花	・学習指導主任教務，6年主任，体育主任	3	
11	下	・体育実技		・体育主任教務	1.5	・鉄棒，マット とび箱運動
1	中	・児童指導について		・児童指導主任	2	・事例を持ちよって話合うようにする。
1	下	・研究授業（道徳）	岩下 高沢	・道徳主任，教務1,2年主任学習指導主任	4	
2	中	・研究授業（道徳）	大竹 村田	・道徳主任，教務4,5年主任学習指導主任	4	

② 計画的研修 (2)

先輩教師の授業参観（更紙半裁程度の指導略案をお願いする）

河野 ― 図工　　山田 ― 音楽　　梅沢 ― 理科

岡田 ― 国語　　家住 ― 算数　　鈴木 ― 学指（同和）

③ 研修の記録

(ア) 毎回の研修について

まとめと今後の課題を明らかにして記録する。記録者は交代制にする。

(イ) 授業記録について

特に，道徳の研究授業について記録をとる。（教師・児童の話し合い＝発言の様相）

④ その他の研修

計画に位置づけられたもののみを現職教育とするのでなく，互いに自主的・積極的に研究し，日常の話し合いを通して問題点を解明していくよう努める。

（炉辺談話的研修）

3. 研修の実際

(1) 総合的な見方，考え方についての研修

- 「歎異抄」（親鸞）輪読会　（昭和５５年度）
- 「教育に関する考察」（ジョン＝ロック）輪読会　（昭和５５年度）
- 「教育論」（スペンサー）講読　（昭和５７年度）
- 西小学校教育計画　西小学校教育改善の方向を学ぶ　（随　時）
- 教師としての基本的姿勢（校長先生からの講話）　（毎年１回）

(2) 研究授業

実践例（昭和５８年度第３回目の研究授業）

（事前研究，研究授業，事後研究の例）

第３学年　図工科
題材名　見てきたこと（えびす講）描画

① 第１回事前研究（S58. 11. 9）

○題材設定の理由についての研究討議

＜授業者の提案した資料＞

感動にあふれたよい絵をかかせるためには，かきたい気持ちを起こさせることが大切であると考えるが，客観的にものを見始めるこの時期の子どもたちは，目に見える形にこだわり，意欲はあっても思うように表現できないことが多い。自信のない表現をしている児童は，対象をどう見たらよいのか，感動をどう表現したらよいのか迷っているのである。

西小の子どもたちは，冬の初めになると，「えびす講」をとても楽しみにしている。そこでここでは，興味関心の深い「えびす講」を題材としてとり上げ，自分なりの見方，感じ方を大切にして表現させたい。対象に強くかかわらせるために，見学の際に観点を与え，簡単な文章表現により感動を確かなものにさせ，かきたい気持ちを起こさせたい。

＜話し合い＞

- これだけでは，一般的すぎる。西小の児童を対象とし，西小地域を意識した理由を述べなければならない。
- 地域を意識する手だてとしてもこの題材設定が有意義である理由を述べなければならない。

○見学の際の観点について

- 観点を持って見学させた方が効果的であると思うが，どのようなことを与えればよいのだろうか。
- 食べて楽しむ「りんごあめ」や「チョコバナナ」では絵としてよくないだろう。
- 見て楽しむものを選ばせるとよいのではないか。
- たとえば，お神楽，古いおたからをもしているところ，おたからや，神楽殿，本殿，同情なべ，などがよいだろう。

○題材名について

・見てきたこと → 見てきたこと（えびす講）とした方がよい。

○目標について

・心情面は，どのように表せばよいだろうか。

・祭りに参加した感動を絵に表す喜びを味わわせる，でよい。

○指導計画について

・表現……重なり，遠近を考えながら表現させる，かきたいものをよりはっきりさせる。
表わすものの感じをとらえ，形と色を考えて表現させる，を付け加える。

○展開について

・発想をだいじにする発問を考える。

・画面に大きく主題を描いた参考作品があったら使用してはどうか。

・鑑賞のとき，何を話し合わせたいのか，はっきりさせる。

・かけないでいる児童への配慮事項を述べた方がよい。

・遠近や重なりを気づかせる手だてを何か考えられないか。

② 第2回事前研究（S58. 11. 16）

○ 展開についての研究討議

＜授業者の資料＞

	学習活動	時間	主な発問と指示	指導上の留意点	準備	評価
導入	1.見てきたことの中で，心に強く残っていることを発表する。 2.絵に表す場面を決める。	10	・えびす講の様子の中で，心に残ったことを発表して下さい。 ・○○の何がよかったの。	・事前に心に強く残っていることをメモしておかせる。 ・何のどういうところが心に残っているかをはっきりさせる。 ・おかぐらの音をとったテープを利用し雰囲気を出す。	メモ用紙 録音テープ	絵に表す場面が決められたか。
展	3.かきたいことをどこにどのようにかくか画面の組み立てを考える。 4.サインペンで下絵をかく。	30	・絵に表したいことを思い出しながら，画用紙におよその見当をつけて指がきして下さい。 ・かきたいものを大きくかいて下さい。 ・サインペンで，おもいきってかいていきましょう。	・中心になるものを大きく表すようにさせる。 ◎まちがったらこわいと思ってなかなかかけない児童に，そ	A3の画用紙 サインペン	画面の組み立てが考えられたか。 サインペンでおもいきって

開			・形がくずれてもいい，線が出てもいいかきたいことがおもいきりかけていればいいんだよ。 ・そのとき何がまわりにあったの。 ・その人は何を持っていたの。	の気持ちを緩和するなげかけをする。 ◎イメージがないからかけない児童には祭りの様子を話し合うことにより，実感を想起させる。 ◎常に主題をしっかり持たせるようにひとりひとりに対してその表したいことを確かめ，相談にのって，意欲を高めたりつまづきを除いたりする。		下絵がかけたか。
	5.友だちの作品を見て話し合う。	5	・かきかけですが，この絵を見て，よくかけているなあと思うところを発表して下さい。 ・いい絵になりそうだね。仕上がりが楽しみだね。	・かきたいことが思いきって大きくかけている作品，遠近感のある作品，重なりが表れている作品があったら提示する。 ◎友だちの作品のよいところを見つけさせる。 ・意欲を持続させるようななげかけをする。		友だちの作品のよいところが見つけられたか

＜話し合い＞

・画面構成の方法を知る具体的な手だてを入れた方がよい。

・重なりや遠近の様子の表現方法を視覚的にとらえさせるには，どうしたらよいか。

・切りぬいた絵を利用してはどうか。

・指がきして画面構成を考えるところは，評価はむずかしい。

――― 第3学年図画工作科学習指導案 ―――

・第1回，第2回の事前研究で討議し，修正され，研究授業で使用された指導案

1. 題材名　　見てきたこと（えびす講）

2. 題材設定の理由

感動にあふれたよい絵をかかせるためには，かきたい気持ちを起こさせることが大切で

あると考えるが，客観的にものを見始めるこの時期の子どもたちは，目に見える形にこだわり，意欲はあっても思うように表現できないことが多い。自信のない表現をしている児童は，対象をどう見たらよいのか，感動をどう表現したらよいのか，迷っているのである。

西小の子どもたちは，冬の初めになると「えびす講」をとても楽しみにしている。そこでここでは，興味関心の深い「えびす講」を題材としてとり上げ，自分なりの見方，感じ方を大切にして表現させたい。対象に強くかかわらせるために，見学の際に観点を与え，簡単な文章表現により感動を確かなものにさせ，かきたい気持ちを起こさせたい。

地域を意識する手だてとしてもこの題材は有意義であると考える。なぜならば，この題材をとり上げることにより，「えびす講」という祭りを改めて見直し，家庭や地域の人々から西小地区の歴史を学ぶことが期待できるからである。絵をかくことにより，祭りに体を通してひたらせたい。地域の祭りに参加することにより，人々の生活景観を正しく見て地域の愛情や連帯感を深めるのに格好の題材である。

3. 目　　標

(1) 心　情

祭りに参加した感動を，すなおにのびのびと絵にかく喜びを味わわせる。

(2) 造　形

見てきたことの中で自分の心に強く残ったことをはっきり思いうかべて表現させる。中心になるもの（かきたいもの）とそのまわりの様子に気をつけながら画面構成ができるようにさせる。

(3) 技　能

ものの前後の関係や奥行きを考えて画面構成をさせる。水彩絵の具の扱い方を理解し，表すものの感じをとらえ，形と色を考えて表現させる。

4. 指 導 計 画

4時間扱い

段階	学習活動	指導内容	時間
発想	∘見学してきたことの作文を発表し話し合う。	∘心に強く残ったことを短い文で，かかせる。	20分
構想	∘絵に表したいことを決める。	∘どんな場面を絵にするか考えさせる。	10分
表現	∘表す主題を中心にして，その前後の関係を考えながら，サインペンで下がきする。 ∘水彩絵の具で色をつける。	∘表したいことが分かるように画面の構成を考えるために画用紙に指がきさせる。 ∘重なり，遠近を考えながら表現させる。かきたいものをよりはっきりさせる。 ∘表すものの感じをとらえ，形と色を考えて表現させる。	130分

鑑　賞	○互いの作品について，表し方の違い等について話し合う。	○自分の絵について発表させる。友だちの作品のよさを見つけさせる。	20分

5. 本時の指導

(1) 題　　材　　見てきたこと（えびす講）

(2) ねらい

見学してきたことの作文をもとにして，心に強く残った場面を，中心になるものと，そのまわりのものとのかかわりを考えて，下絵をかくことができる。

(3) 同和教育の視点

ひとりひとりの児童が，自分の持つ能力で，見てきたことをもとに自由にのびのびと表現する。

友だちの作品を見せ合ったり，発表や話し合いの中で，よい点を認め合う。

(4) 展　　開

	学習活動	時間	主な発問と指示	指導上の留意点	準備	評価
導入	1.見てきたことの中で心に強く残っていることを発表する。 2.絵に表す場面を決める。	10	・えびす講の様子の中で，心に残ったことを発表してみよう。 ・○○の何がよかったの。	・事前に心に強く残っていることをメモしておかせる。 ・何のどういうところが心に残っているかをはっきりさせる。 （お神楽の音をとったテープを利用し，雰囲気を出す。）	メモ用紙 録音テープ	絵に表す場面が決められたか。
展開	3.画面構成の方法を知る。 ・重なり・遠近	30	・人がたくさんいた様子をかくにはどうすればいいかな ・むこうにあるように見えるようにかくにはどうすればいいかな。	・切りぬいた絵を利用して，重なりや遠近の様子を表現するにはどうすればよいか視覚的にとらえさせたい。		画面構成の方法がわかったか。

展開	4.かきたいことをどこにどのようにかくか，画面構成を考える。		・絵に表したいことを思い出しながら画用紙におよその見当をつけて指がきしよう。 ・いちばんかきたいものを大きくかこうね。	・中心になるものを大きくかくように演示する。	A3の画用紙	
	5.サインペンで下絵をかく。		・サインペンでおもいきってかいていこう。 ・形がくずれてもいい。線が出てもいい。かきたいことがおもいきりかけていればいいんだよ。 ・そのとき何がまわりにあったの。 ・その人は何を持っていたの。	◎まちがったらこわいと思ってなかなかかけない児童に，その気持ちを緩和するなげかけをする。 ◎イメージがないからかけない児童には祭りの様子を話し合うことにより，実感を想起させる。 ◎常に主題をしっかり持たせるようにひとりひとりに対してその表したいことを確かめ，相談にのって，意欲を高めたりつまづきを除いたりする。	サインペン	サインペンでおもいきって下絵がかけたか。
終末	6.友だちの作品を見て話し合う。	5	・かきかけだけれどこの絵を見てごらん，よくかけているなあと思うところを発表してみよう。 ・かきたいことが大きくかけているのは，どれだろうね ・遠い感じと近い感じが出ているのはどれだろう。	・かきたいことが思いきって大きくかけている作品，遠近感のある作品，重なりが表われている作品があったら提示する。 ◎友だちの作品のよいところを見つけさせる。		友だちの作品のよいところが見つけられたか。

終末			・人の重なりや物の重なりの感じがよく出ている作品はどれだろうね。 ・いい絵になりそうだね。仕上がりが楽しみだね。	・意欲を持続させるようななげかけをする。		

◎同和教育上の配慮

③　事後の研究会

事後の研究会では授業者の反省をふまえ今後の図工指導の充実に結びつくよう指導者として，校長，教頭，教務主任，学習指導主任，図工主任を迎え，有志の参加者も含め具体的に行われた。以下は話し合いの成果のおもなものである。

ア　学習の意欲づけについて

・テープ，作業用紙の活用がうまくいっていた。

・導入にむだがなく描く視点の与え方がとてもうまくいっていた。

・教師が指がきしたのがとても効果的であった。（遅い児童でも５分以内で描き始まった。）

イ　画面構成のさせ方

・作業用紙がとても生きていたが，マンネリ化しないように注意したい。

・マグシートによる切り絵は，黒板で児童たちに操作させたい。操作の中から視覚的に人と人との重なりや遠近感をつかませるようにしたい。

・画面の中に「あと人を１０人いれてごらん。」のような助言も効果的だろう。

・中心になることは大きく描くことをしっかりおさえておく。

・重なりのあるものは手前を先に書くことを体験を通して理解させたい。

ウ　画材について。（主としてサインペンについて）

・「失敗できない。なぞることができない。」という所で，デッサン力がついてくる。

・子どもはサインペンの線を下絵としかみていない。

・強さ，弱さを表わすのに一本だけでは無理がある。細い，太い２本あると全体に迫力が出てくる。

・３年生は太いもの一本でよい。４年生では両方用意する。その際，太いものから使わせる。必要感にせまられた所で細いものを使わせたい。

エ　板　　書

・意欲と関係があるので，あまりしつこく書くべきではない。

・意欲に結びつくものを書くように努めたい。

・技能的なものは本時の場合必要ないだろう。切り絵を操作させ，そのままとっておいてやればよい。

オ　評価について

・次時へつなげるものでありたい。

・ひとりひとりに成就感を持たせるように努めたい。次時へのさそい，期待をかけるようにしたい。

・いろいろな作品の出し方があってよい。（たとえば一列全員出させる。）

・ねらいの確認を忘れない。

・下絵の途中で前に並べてやるのは効果がある。

・良いところをほめてやるよう心がけてほしい。

(3) 実　技　（略）

(4) 日常指導上の諸問題の研修

・児童指導上の問題

・学級経営上の問題

(5) 炉辺談話的研修

・学年主任との話し合い

・放課後の職員室での他学年の先生，各主任の先生との話し合い

・校長先生との話し合い

(6) 全体の現職教育への参加

個人研究への参加

57，58年度の若竹グループ員の個人研究の課題

＜57年度＞

・書く習慣によって身につける文章表現力

・物を大切にする運動　ー特にえんぴつー

・算数科における単元導入の工夫　ー特に図形単元についてー

・理科における導入の工夫　ー4年水と空気ー

・児童の言葉に対する意識　ー特に敬語を中心としてー

・本校児童の泳力向上をめざして（第三次）

＜58年度＞

・やる気をおこす子どもに　ー漢字読みがなテストとスピードドリルの活用を通してー

・学級への不適応感をもつ児童の理解　ー調査とその活用への試みー

・連想作文

・音楽における楽しいふんいき作りをめざして　ー合唱を通してのふんいき作りー

・本校児童の生活体験及び生活習慣調査

4. まとめと今後の課題

今までの若竹グループの成果は，ひとことで言うと問題がみえてきたということである。

たとえば，落とし物が多いというのを，子どもがだらしないとか，親が悪いとかということで片づけてしまうのではなく，その背景として考えられることを追究したり，その落とし物の指導が学校教育全体のどこと結びついているのか，考えたりできるようになった。つまり，日々の教育活動の全体と部分のかかわりがわかるようになってきたことと，日々提起される問題が適確に把握できるようになったことである。

第二の成果は，昨年度から自主的な運営になり，研究授業の際も事前研究を重視することによって，共同でひとつの授業を創造していく姿勢になってきたことが，あげられる。授業者だけが苦労して指導案を作成するのではなく，みんなで意見を出しあって作っていくようになったのは，大きな成果である。もちろん授業者が提案し問題点をかかえて事前研究に臨むことは言うまでもない。

今後の課題としては，ややもすると計画を作って，それを消化していくことだけで，研修がおわりという考えに落ち入りやすいので，日々の教育実践がそのまま研修であることを確認し，楽しい雰囲気の中でより積極的に日常の研修活動を推しすすめていきたい。

また，先輩教師の授業参観を計画したが，実際には，あまりできなかったのが現状なので，来年度からはもっと積極的に行っていきたい。

この研究レポートは，若竹グループのメンバーでまとめたものである。

評

「研修は教師の生命である」とよく言われています。研究の冒頭に述べられているとおり身近にいる先輩教師や先人の教育学に学び，日常の教育実践の具体的な諸問題を組織的に研究解決している先生方の努力がうかがえる。

特に西小の若竹グループの研修に対する基本的な考え方や実践は大変すばらしいことです。

その感想のいくつかをのべさせてもらえるならば，

(1) 教育の本質的なものとはなにかをみつめていること。

(2) 日常の教育実践の中から，問題点や課題を明らかにし，明日の教育活動や指導法の改善に役立てていること。

(3) 教育活動全体を総体としてとらえ，研究実践の位置づけを明確にし，現職教育の充実を図っていること。

(4) 自主的，主体的な研究グループであることなどが，あげられます。

これらのことは，自校の現職教育や研修のあり方を，改善しみつめる上で，大変参考になることが多いのではないかと思います。

若竹グループの研究実践や1人1研究など，西小の現職教育の特色のひとつとしてあげられるのではないだろうか。今後もこの研究実践がさらに充実し，明日の子供たちの教育活動に生かされることを期待いたします。